［募集代理店］ 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

アダージオai

災害2割加算型変額個人年金保険（アダージオ）

特別勘定の月次運用レポート
2026年10月末現在

〇市場概況
〇特別勘定の運用状況
〇組入投資信託の運用レポート

変額個人年金保険のリスクと手数料について

●変額個人年金保険は一時払保険料をファンドで運用します。ファンドの主要投資対象である投資信託は、国内外の株式・債券等で運用しており、運用実績が保険金額や資産残高・将来の年金額等の増減につながるため、株価や債券価格の下落、為替の変動により、資産残高、解約払戻金額は払込保険料を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。

●受取総額が一時払保険料相当額を下回ること（元本割れリスク）があります。
●保険関係費用：ご契約の新規成立・維持等や死亡・災害死亡の保障等をするための費用です。運用期間中、資産残高に対して年率2.30%の割合で資産残高から毎日控除されます。90歳開始年金原資保証特約を付加した場合は特約分の保険関係費用（資産残高に対して年率0.05%）が別途必要になり、合計で年率2.35%の割合で資産残高から毎日控除されます。ただし、マネーファンドの保険関係費用には優遇措置（上限：年間100日まで）があります。
●運用関係費用：ファンドの運用にかかる費用です。主にファンドが投資する投資信託の信託報酬で、信託財産に対して最大で年率1.188%（税抜1.08%）程度の割合で信託財産から毎日控除されます。運用手法の変更等の理由により将来変更される可能性があります。
●契約管理手数料：毎年の契約応当日の前日の資産残高が200万円未満の場合、前年の契約管理手数料として年額4,800円が契約応当日に資産残高から控除されます。全部解約時の資産残高が200万円未満の場合、解約の年の契約管理手数料として一律4,800円が解約時に控除されます。
●年金管理費：年金支払の管理にかかる費用です。年金の受取期間中、年金額に対して1%の割合で責任準備金から年金受取時に控除されます。
●解約控除：ご契約日および増額日からその日を含めて7年未満の全部解約、一部解約（ご契約または増額時から7年未満の元本総額の5%相当額までを除く）をした場合にかかります。ご契約日からの経過年数に応じて、解約控除対象額※の7%～2%の割合で解約日の資産残高または一部解約請求額から控除されます。
※解約控除対象額は、全部解約の場合は一時払保険料相当額、一部解約の場合は一部解約請求額と一時払保険料相当額のうちいずれか小さい方の金額となります。なお、過去に一部解約があった場合はその際の解約控除対象額が一時払保険料相当額から差し引かれます。

＊この商品にかかる費用の合計額は、「運用期間中の費用（「保険関係費用」「運用関係費用」）」と「年金受取期間中の費用（「年金管理費」）」の合計額となります。また、特定のお客さまには「契約管理手数料」や「解約控除」がかかります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

［引受保険会社］ オリックス生命保険株式会社

本商品につきましては、新規のご契約のお取り扱いを行っておりません。
ただし、既に本商品をご契約されているお客様につきましては、ご契約後の各種手続のお取り扱いを行っております。

（管）ORI-103

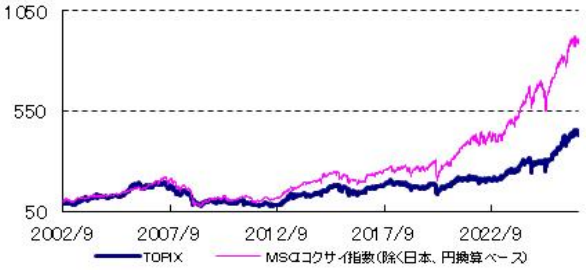
市　　場　　概　　況

	代表的な指標の騰落率	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
日本株式	日経平均株価	▲ 5.19%	▲ 1.67%	6.76%	20.76%	105.10%
	TOPIX（東証株価指数）	▲ 3.49%	▲ 0.95%	6.38%	19.01%	75.93%
日本債券	NOMURA－BPI総合	1.76%	0.48%	▲ 0.65%	▲ 5.23%	▲ 9.22%
外国株式	MSCIコクサイ指数（除く日本、円換算ベース）	0.78%	0.33%	5.24%	14.87%	89.25%
外国債券	FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	1.34%	▲ 2.02%	▲ 2.81%	1.80%	22.57%
外国為替	米ドル対円為替レート（仲値）	0.12%	▲ 1.98%	▲ 1.78%	2.23%	5.37%

日経平均株価(円)の推移



日本と外国の株式市場パフォーマンス推移

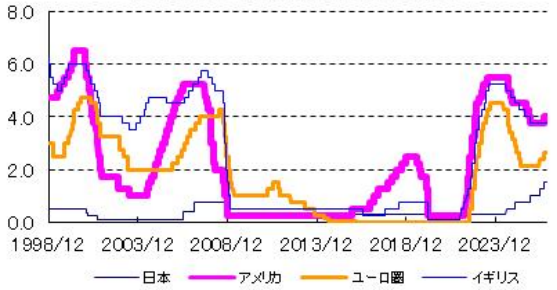


＊上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

日本の国債利回り(%)の推移



先進各国の政策金利(%)の推移



日本と外国の債券市場パフォーマンス推移



＊上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

外国為替レート(円)の推移



全てのデータの出所はBloomberg、野村総合研究所です。NOMURA-BPIとは、日本国内債券市場で発行されている代表的な公社債の流通動向を的確に表す投資収益指数です。当指数は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社によって計算、公表されている、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社の知的財産です。なお、同社は、当指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。MSCIコクサイ指数とは、MSCI Inc.が所有する株価指数で、世界の主要先進国の株式市場の動きを捉える基準として、広く認知されているものです。FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※運用状況については、組入投資信託の運用レポートをご覧ください。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定（ファンド）グループ

特別勘定と投資対象の投資信託

特別勘定	運用資産				投資対象の投資信託	運用会社	資産配分(%)		資産合計
	株　式		債　券				投資信託	現預金その他	（百万円）
	日本	外国	日本	外国					
日本株式ファンド SR	●				シュローダー日本株式オープンVA＊	シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社	98.3%	1.7%	176
日本株式グロースファンド FIA	●				フィデリティ・日本成長株・ファンドVA1＊	フィデリティ投信株式会社	95.3%	4.7%	753
日本株式インデックスファンド UF	●				三菱UFJ TOPIX・ファンドVA1	三菱UFJアセットマネジメント株式会社	97.1%	2.9%	1,223
日本小型株式ファンド ML	●				JDF日本小型株ファンドVA＊	ブラックロック・ジャパン株式会社	96.7%	3.3%	304
世界株式グロースファンド AC	●	●			アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ－２＊	アライアンス・バーンスタイン株式会社	96.2%	3.8%	207
世界バランスファンド GSB	●	●	●	●	ダ・ヴィンチ VA2	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社	96.8%	3.2%	196
マネーファンド MB			●		三菱UFJ MRF（マネー・リザーブ・ファンド）	三菱UFJアセットマネジメント株式会社	97.0%	3.0%	141

＊適格機関投資家専用に設定される投資信託です。

投資信託の運用方針

投資対象の投資信託	運用方針
シュローダー日本株式オープンVA＊	主に日本の株式等に投資し、企業の成長性と株価の割安性を考慮した銘柄選定をすることによって、TOPIX（東証株価指数、配当込み）を上回る投資成果の獲得を目指します。
フィデリティ・日本成長株・ファンドVA1＊	成長企業の株式に投資することにより、TOPIX（東証株価指数、配当金込み）を上回る投資成果を目指します。市場平均等に比較し成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される成長企業を独自の個別企業分析により選定し投資を行い、信託財産の成長を目指します。
三菱UFJ TOPIX・ファンドVA1	東京証券取引所に上場されている株式を主要投資対象として、TOPIX（東証株価指数）（配当込み）に連動する投資成果の獲得を目指します。
JDF日本小型株ファンドVA＊	主に日本の上場株式の中小型株に投資し、Russell/Nomura Mid-Small Cap（配当込み）を上回る投資成果の獲得を目指します。中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安全性等を総合的に勘案し銘柄選定します。
アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ－２＊	主に日本を含む先進各国の上場株式に投資し、世界株式市場の代表的指数であるMSCIワールド指数を上回る投資成果の獲得を目指します。成長性が高いと判断される「産業セクター」を選定し、当該「産業セクター」の中から成長性が高いと思われる銘柄に投資します。
ダ・ヴィンチ VA2	日本を含む世界各国の株式、債券、円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。為替は100%円ヘッジを基本とすることで、円高・円安による為替変動の影響を低減します。
三菱UFJ MRF（マネー・リザーブ・ファンド）	内外の公社債およびコマーシャル・ペーパーを中心に投資し、安定した収益の確保を目指します。投資対象とする有価証券は信用度が高く、残存期間が短いものとします。外貨建資産への投資については、円貨で約定・決済するもの（為替リスクの生じないもの）に限ります。

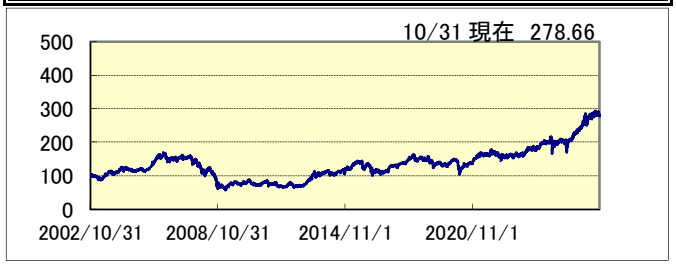
＊適格機関投資家専用に設定される投資信託です。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

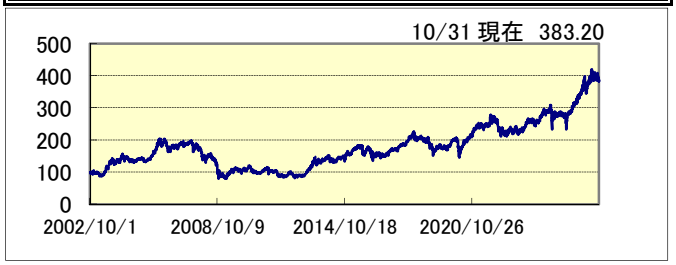
《90歳開始年金原資保証特約付》

日本株式ファンド SR



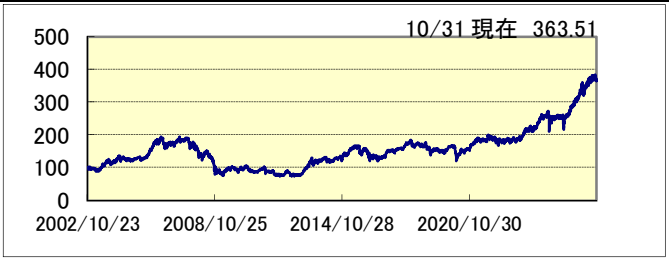
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−3.22%	−1.45%	1.85%	16.14%	55.82%	178.66%

日本株式グロースファンド FIA



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−3.81%	−2.44%	1.91%	13.26%	54.95%	283.20%

日本株式インデックスファンド UF



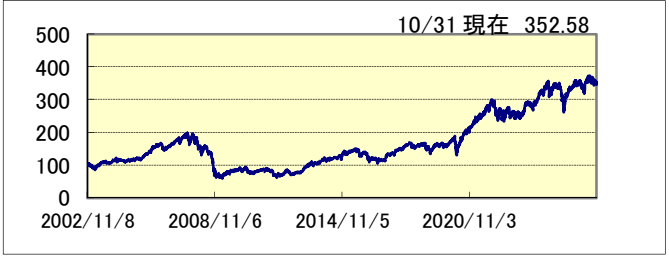
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−3.62%	−0.70%	5.85%	17.56%	70.32%	263.51%

日本小型株式ファンド ML



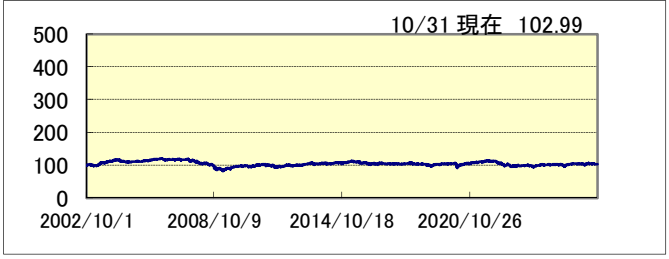
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−6.60%	−2.43%	−1.09%	17.64%	81.18%	343.49%

世界株式グロースファンド AC



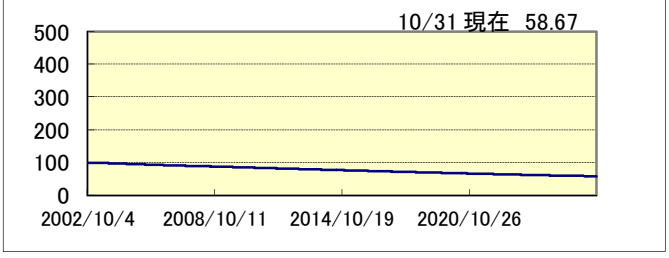
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−0.42%	−1.52%	−0.60%	−2.01%	31.34%	252.58%

世界バランスファンド GSB



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−0.87%	−1.00%	−0.77%	−2.10%	9.28%	2.99%

マネーファンド MB



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−0.11%	−0.37%	−0.79%	−1.68%	−5.82%	−41.33%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

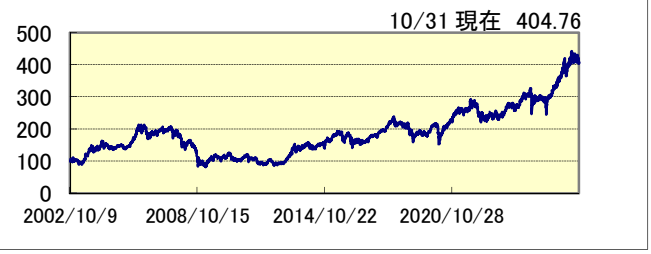
《特約無し》

日本株式ファンド SR



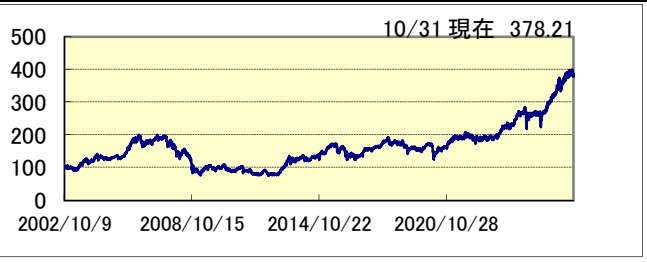
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	20.40%	105.74%

日本株式グロースファンド FIA



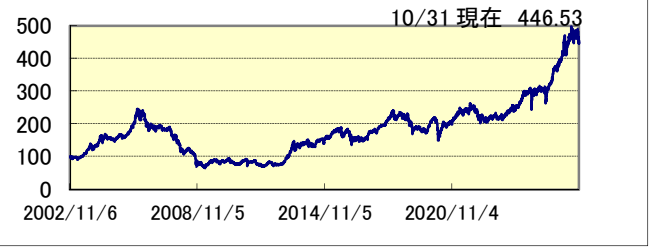
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−3.81%	−2.42%	1.94%	13.31%	55.18%	304.76%

日本株式インデックスファンド UF



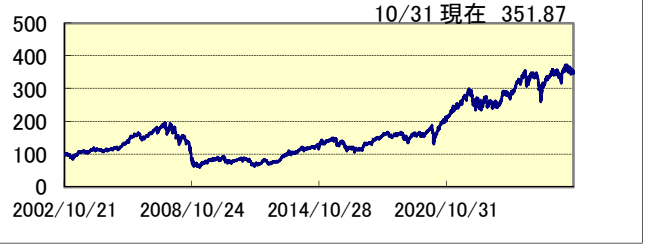
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−3.61%	−0.69%	5.87%	17.61%	70.57%	278.21%

日本小型株式ファンド ML



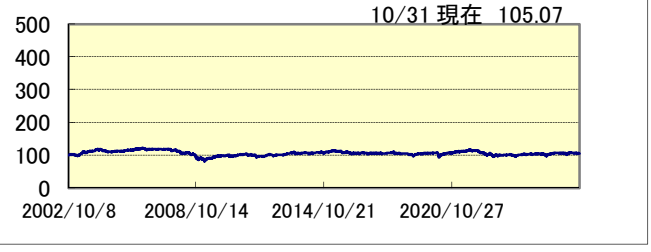
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−6.60%	−2.42%	−1.06%	17.70%	81.45%	346.53%

世界株式グロースファンド AC



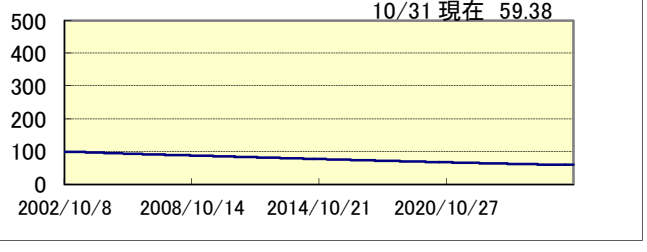
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−0.42%	−1.51%	−0.57%	−1.96%	31.54%	251.87%

世界バランスファンド GSB



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−0.87%	−0.99%	−0.75%	−2.06%	9.45%	5.07%

マネーファンド MB



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	−0.11%	−0.36%	−0.76%	−1.63%	−5.68%	−40.62%

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本株式ファンド　SR

【特別勘定が投資する投資信託】

シュローダー日本株式オープンVA（適格機関投資家専用）

【運用会社】

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

主要投資対象

日本の株式。主にシュローダー日本株式マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運　用　方　針

主に日本の株式等に投資し、企業の成長性と株価の割安性を考慮した銘柄選定をすることによって、TOPIX（東証株価指数、配当込み）を上回る投資成果の獲得を目指します。

■ファンド状況

2026年10月30日現在

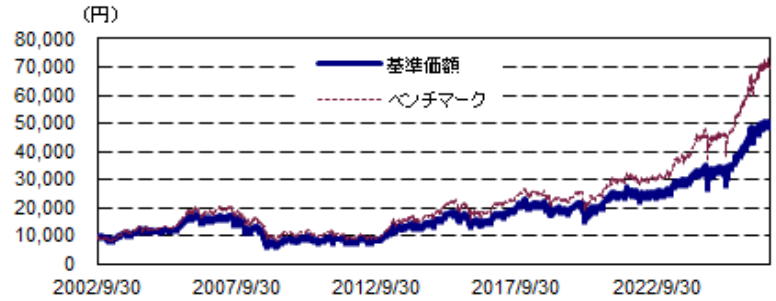
基準価額	48,522円	純資産総額	225(百万円)	組入銘柄数*	68銘柄

＊マザーファンドの組入銘柄数

■組入状況

組入対象	投資比率
株式	99.17%
東証プライム	98.36%
東証スタンダード	0.81%
東証グロース	-
地方単独	-
その他	-
株式先物	-
キャッシュ等	0.83%
計	100.00%

■設定来の基準価額とベンチマークの推移



＊ベンチマークはTOPIX（東証株価指数、配当込み）です。
＊基準価額は税引前分配金を再投資した場合。

■組入上位業種

	業　種　名	投資比率
1	電気機器	21.51%
2	銀行業	12.35%
3	情報・通信業	8.56%
4	保険業	8.34%
5	機械	6.85%

■基準価額(税引前分配金再投資)とベンチマークの騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-3.08%	-0.88%	3.16%	19.69%	70.17%	385.22%
ベンチマーク	-3.48%	-0.04%	7.54%	21.71%	88.79%	593.86%

＊騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。分配金を再投資した基準価額の騰落率です。

■対ベンチマーク　オーバーウェイト業種

	業種名	投資比率	ベンチマーク
1	保険業	8.34%	3.82%
2	建設業	5.11%	2.05%
3	情報・通信業	8.56%	6.36%
4	その他金融業	3.03%	1.23%
5	化学	6.30%	4.57%

■東証プライム株式組入上位銘柄

	銘　柄　名	業種	投資比率
1	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	5.76%
2	ゆうちょ銀行	銀行業	3.85%
3	ソニーグループ	電気機器	3.74%
4	伊藤忠商事	卸売業	3.73%
5	三菱電機	電気機器	3.71%
6	アドバンテスト	電気機器	3.51%
7	東京海上ホールディングス	保険業	3.47%
8	キーエンス	電気機器	3.24%
9	オリックス	その他金融業	3.03%
10	住友不動産	不動産業	2.86%

■対ベンチマーク　アンダーウェイト業種

	業種名	投資比率	ベンチマーク
1	サービス業	0.83%	4.86%
2	卸売業	4.14%	7.68%
3	食料品	0.52%	2.87%
4	小売業	1.66%	3.99%
5	医薬品	1.72%	3.60%

■東証プライム以外の株式組入上位銘柄

	銘　柄　名	業種	投資比率
1	テラプローブ	電気機器	0.41%
2	テクノ菱和	建設業	0.40%
3	-	-	-
4	-	-	-
5	-	-	-

■過去の分配実績（税引前）

決算期	分配金
第20期(2021年11月22日)	0円
第21期(2022年11月21日)	0円
第22期(2023年11月20日)	0円
第23期(2024年11月20日)	0円
第24期(2025年11月20日)	0円
設定来累計	0円

※投資比率は、マザーファンドの投資比率と当ファンドが保有するマザーファンド比率より算出しております。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】	【特別勘定が投資する投資信託】
日本株式ファンド SR	シュローダー日本株式オープンVA（適格機関投資家専用） 【運用会社】 シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

主要投資対象

日本の株式。主にシュローダー日本株式マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

主に日本の株式等に投資し、企業の成長性と株価の割安性を考慮した銘柄選定をすることによって、TOPIX（東証株価指数、配当込み）を上回る投資成果の獲得を目指します。

■マンスリー・コメント

10月は、中東情勢の悪化による原油高に加え、米国のネオクラウドを中心にAIインフラに対する巨額投資への懸念からAI関連株が売られ、マーケットは下落となりました。月の前半は、2日（現地時間）に発表された9月の米雇用統計が市場予想を下回り早期の利上げ観測が後退したことから堅調推移となったものの、その後はネオクラウド企業の社債価格急落などを受け、AI・半導体関連に売りが広がる展開となりました。後半に入っても軟調な動きは継続し、AI・半導体関連が下げを主導する動きとなりました。7-9月期の決算発表の内容は良好なものが多く、好決算を発表した銘柄への買いも一部で見られましたが、相場全体としては売り優勢の展開が継続しました。30 日に開催された日銀金融政策決定会合において、日銀は金利の据え置きを決定しましたが、基調的な物価上昇率は目標としている2%と概ね整合的な水準に達したとし、利上げ継続の方針を示しました。結局、月間でTOPIX（配当込み）は-3.5%の下落となりました。

東証33業種別騰落率ですが、上位5業種についてはサービスがトップ、鉱業、医薬品、海運、小売が続きました。一方、下位5業種は非鉄金属がトップ、機械、銀行、電気機器、金属製品となりました。今月はリバーサルファクターが有効な相場となりました。

日本企業の業績に関してですが、足元で発表されている7-9月期の決算に関しては円安メリットの縮小や中東影響によるコストアップはあるものの、概ね堅調な業績が継続しています。但し、中東情勢の影響に関しては概ね上期までのインパクトが織り込まれており、下期以降のマイナス影響は会社計画に対する下振れ要因となります。市場では、AIインフラ投資の持続性に対する懸念が台頭していることに加え、目先は米国における中間選挙の影響を見極める動きとなる中で、ボラティリティの高い相場展開を想定します。

日本企業は、高水準の自社株取得枠を発表するなど株主還元を積極化させています。東証は資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を求めており、持合い株の解消や株主還元の改善などガバナンス改革は中期的に進展すると判断できることから、日本株固有の支援材料になると見ています。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
日本株式グロースファンド FIA

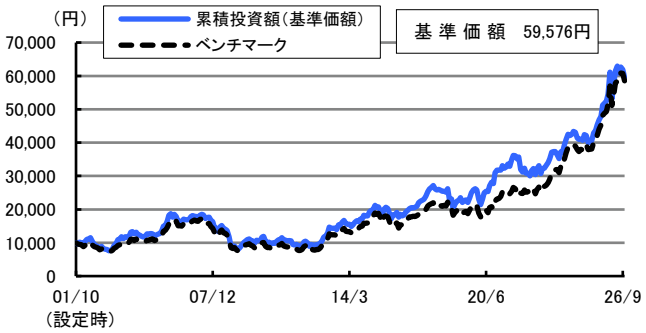
【特別勘定が投資する投資信託】
フィデリティ・日本成長株・ファンドVA1（適格機関投資家専用）

【運用会社】
フィデリティ投信株式会社

主要投資対象
日本の上場株式。主にフィデリティ・日本成長株・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針
成長企業の株式に投資することにより、TOPIX（東証株価指数）を上回る投資成果を目指します。市場平均等に比較し成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される成長企業を独自の個別企業分析により選定し投資を行い、信託財産の成長を目指します。

設定来の運用実績　（2026年10月30日現在）



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

累積リターン　（2026年10月30日現在）

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	−3.79%	−2.01%	3.05%	16.32%	68.99%	495.76%
ベンチマーク	−3.48%	−0.04%	7.54%	21.71%	88.79%	485.79%

※ 累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ ベンチマーク：TOPIX（配当込）

＊TOPIX（配当込）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されており、配当を考慮したものです。
＊東証株価指数（TOPIX）（以下「TOPIX」という。）の指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

過去5期分の収益分配金（1万口当たり／税込）

第 20期(2021.11.30)	0円
第 21期(2022.11.30)	0円
第 22期(2023.11.30)	0円
第 23期(2024.12.02)	0円
第 24期(2025.12.01)	0円

純資産総額	14.7 億円	（2026年10月30日現在）

コメント　（2026年10月30日現在）
当月の東京株式市場は、人工知能（AI）のインフラ投資を巡る資金調達やその持続性に対する懸念を背景としてAI・半導体関連株が調整したことを受け、下落しました。
米半導体メモリ大手の好決算や、米労働市場の減速を受けて米利上げ観測が後退したことを支えとして上昇して始まりました。しかし、それまで上昇していたAI・半導体関連株を中心に利益確定売りが広がると、世界的なインフレ懸念を背景とした金利先高観に加え、米AI向けクラウドサービス企業の社債価格急落を契機としてAI投資減速への懸念が高まり、月半ばにかけて株価は急落しました。その後も、AI関連企業による巨額のインフラ投資計画を受けて、関連企業の財務に対する懸念が高まったことも下押し圧力となり、続落しました。米AI新興企業が新規株式公開（IPO）に向けて公表した上場申請書類で収益性の改善が示されたほか、米連邦公開市場委員会（FOMC）で金利が据え置かれたことも安心材料となり反発する場面もあったものの、米AI関連企業の決算発表を受けてAIインフラ投資の持続性に対する懸念が再燃し、月末に再び下落しました。
月間の騰落率は、TOPIX（配当込）が－3.48%、日経平均株価は－5.19%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

組入上位10銘柄（マザーファンド・ベース）　（2026年9月30日現在）

	銘 柄	業 種	比率
1	三菱UFJﾌｨﾅﾝｼｬﾙ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ	銀行業	5.0%
2	みずほﾌｨﾅﾝｼｬﾙｸﾞﾙｰﾌﾟ	銀行業	4.3%
3	ﾘｸﾙｰﾄﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ	サービス業	4.1%
4	村田製作所	電気機器	3.0%
5	日立製作所	電気機器	2.8%
6	ｷｰｴﾝｽ	電気機器	2.6%
7	横浜ﾌｨﾅﾝｼｬﾙｸﾞﾙｰﾌﾟ	銀行業	2.4%
8	三井物産	卸売業	2.3%
9	三菱電機	電気機器	2.3%
10	東京ｴﾚｸﾄﾛﾝ	電気機器	2.0%

（ 組入銘柄数 ： 176 ）　上位10銘柄合計　30.8%
（対純資産総額比率）

ポートフォリオの状況（マザーファンド・ベース）　（2026年9月30日現在）

資産別組入状況

株式	98.1%
新株予約権証券(ﾜﾗﾝﾄ)	−
投資信託・投資証券	−
現金・その他	1.9%

市場別組入状況

東証プライム	97.4%
東証スタンダード	0.5%
東証グロース	0.2%
その他市場	−

組入上位5業種

電気機器	21.8%
銀行業	15.7%
卸売業	7.6%
機械	7.3%
サービス業	5.1%

（対純資産総額比率）

＊各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。
＊業種は東証33業種に準じて表示しています。
＊未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
日本株式インデックスファンド UF

【特別勘定が投資する投資信託】
三菱UFJ　TOPIX・ファンドVA1

【運用会社】
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

主要投資対象
東京証券取引所上場株式。主にTOPIXマザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運　用　方　針
東京証券取引所に上場されている株式を主要投資対象として、TOPIX（東証株価指数）（配当込み）に連動する投資成果の獲得を目指します。

■基準価額および純資産総額の推移



・基準価額は、運用管理費用（信託報酬）控除後の値です。
・ベンチマークは、設定日前営業日を10,000として指数化しています。
・2019年10月1日に当ファンドのベンチマークを「配当除く指数」から「配当込み指数」へ変更しました。

■基準価額および純資産総額

基準価額（1万口当たり）	64,398円
前月末比	−2,353円
純資産総額	14.92億円

■分配金実績（1万口当たり、税引前）

決算期	決算日	分配金
第24期	2026/03/25	0円
第23期	2025/03/25	0円
第22期	2024/03/25	0円
第21期	2023/03/27	0円
第20期	2022/03/25	0円
第19期	2021/03/25	0円
設定来累計		0円

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	−3.5%	−0.2%	7.3%	21.1%	86.2%	544.0%
ベンチマーク	−3.5%	−0.0%	7.5%	21.7%	88.8%	606.1%

・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。
　また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
・分配金実績がある場合は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。

■資産構成

	比率
実質国内株式	100.0%
内　現物	98.8%
内　先物	1.2%
コールローン他	0.0%

■組入上位10業種

	業種	比率	ベンチマーク構成比
1	電気機器	19.8%	20.1%
2	銀行業	11.8%	12.0%
3	卸売業	7.6%	7.7%
4	情報・通信業	6.3%	6.4%
5	機械	5.2%	5.3%
6	輸送用機器	5.1%	5.2%
7	サービス業	4.8%	4.9%
8	化学	4.5%	4.6%
9	小売業	3.9%	4.0%
10	保険業	3.8%	3.8%

■組入上位10銘柄

組入銘柄数: 1,668銘柄

	銘柄	業種	比率	ベンチマーク構成比
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.7%	3.8%
2	トヨタ自動車	輸送用機器	2.6%	2.7%
3	リクルートホールディングス	サービス業	2.6%	2.6%
4	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.4%	2.4%
5	ソニーグループ	電気機器	2.3%	2.3%
6	日立製作所	電気機器	2.3%	2.3%
7	アドバンテスト	電気機器	2.0%	2.0%
8	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.8%	1.9%
9	東京エレクトロン	電気機器	1.7%	1.8%
10	東京海上ホールディングス	保険業	1.5%	1.5%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。・業種は、東証33業種で分類しています。・東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
　したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本小型株式ファンド ML

【特別勘定が投資する投資信託】

JDF日本小型株ファンドVA（適格機関投資家専用）

【運用会社】

ブラックロック・ジャパン株式会社

主要投資対象

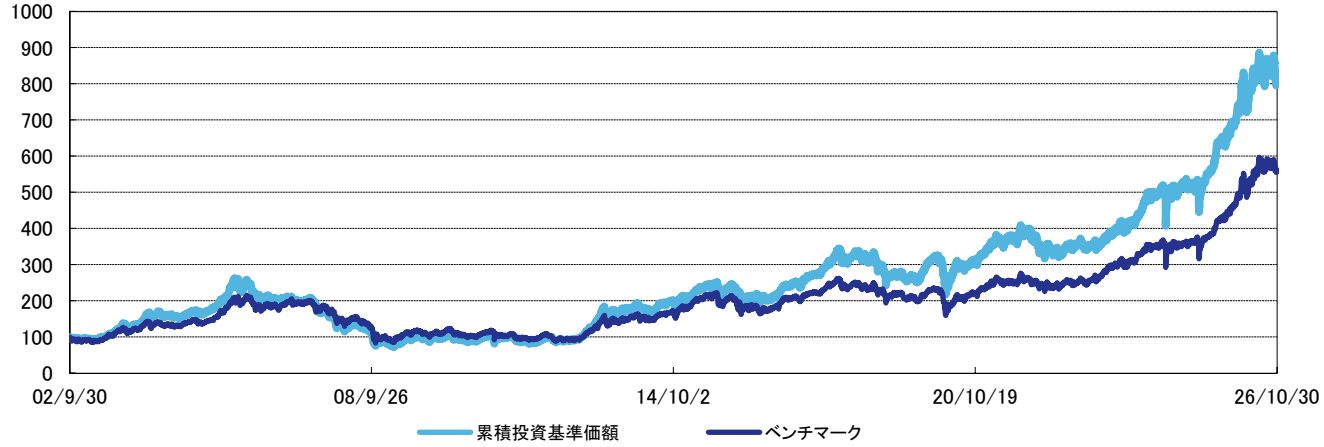
日本の証券取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式。主に日本小型株マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して選定した銘柄を分散投資することによって、Russell/Nomura Mid-Small Cap（配当込み）を上回る投資成果を目指します。

2026年10月30日現在　マンスリーレポート

累積投資基準価額の推移



※ 設定時を100とした指数値を使用しています。
※ 累積投資基準価額は税引前分配金を再投資したものとして算出しています。
※ ベンチマークは、Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）です。2022年6月11日に、当ファンドのベンチマークを「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」より「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）」に変更しました。このため、ベンチマークのデータは、設定時から2022年6月10日までの期間は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」の指数値に基づき、2022年6月11日以降は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）」の指数値に基づき記載しています。

ファンドのパフォーマンス（%）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	5年	設定来
ファンド	-6.63	-1.91	-0.03	20.92	98.43	105.41	700.02
ベンチマーク	-4.08	-0.86	5.98	25.66	87.29	114.96	457.53

※ ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資したものとして算出した累積投資基準価額により計算しています。
※ ベンチマークは、Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）です。2022年6月11日に、当ファンドのベンチマークを「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」より「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）」に変更しました。このため、ベンチマークのデータは、設定時から2022年6月10日までの期間は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index」の指数値に基づき、2022年6月11日以降は「Russell/Nomura Mid-Small Cap Index（配当込み）」の指数値に基づき記載しています。

ファンドデータ

基 準 価 額	80,002円
純 資 産 総 額	3.44億円
ファンド設定日	2002年9月30日

Russell/Nomura Mid-Small Cap Index とは

RUSSELL/NOMURA日本株インデックスの投資スタイルの中のひとつで、フランク・ラッセル・カンパニーと野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社が作成している株式の指数です。当該指数に関する一切の知的財産権その他の権利はフランク・ラッセル・カンパニーと野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社に帰属しております。また、フランク・ラッセル・カンパニーと野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

税引前分配金

分 配 金 累 計 額		0円
第22期	2024年3月15日	0円
第23期	2025年3月17日	0円
第24期	2026年3月16日	0円

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本小型株式ファンド ML

【特別勘定が投資する投資信託】

JDF日本小型株ファンドVA（適格機関投資家専用）

【運用会社】

ブラックロック・ジャパン株式会社

主要投資対象

日本の証券取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式。主に日本小型株マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

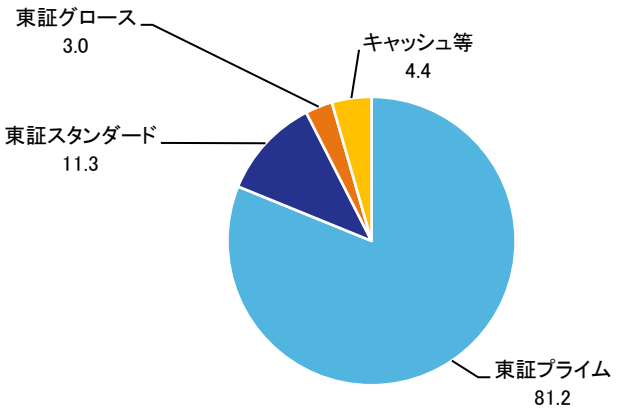
運 用 方 針

中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して選定した銘柄を分散投資することによって、Russell/Nomura Mid-Small Cap（配当込み）を上回る投資成果を目指します。

資産構成比率（%）＊

商品名	比率
株　式	95.6
キャッシュ等	4.4
合計	100.0

市場別組入比率（%）＊



※非上場には新規上場予定銘柄（IPO）を含みます。

株式組入上位10業種（%）＊

	業種	比率
1	電気機器	12.4
2	化学	7.0
3	小売業	6.7
4	銀行業	6.3
5	精密機器	6.3
6	建設業	4.7
7	情報・通信業	4.6
8	保険業	4.1
9	その他金融業	4.0
10	卸売業	3.2

株式組入上位10銘柄（%）＊

銘　柄　数　：　104

	銘柄名	業種	比率
1	ｷｵｸｼｱﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ	電気機器	2.8
2	倉敷紡績	繊維製品	2.3
3	INPEX	鉱業	2.1
4	参天製薬	医薬品	1.9
5	日清紡ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ	電気機器	1.9
6	商船三井	海運業	1.8
7	京三製作所	電気機器	1.6
8	ｼﾞｰｴﾙﾃｸﾉﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ	精密機器	1.6
9	九州旅客鉄道	陸運業	1.6
10	大阪瓦斯	電気・ｶﾞｽ業	1.6

＊比率は対純資産総額、マザーファンドベース。構成比率および組入比率（%）の数字は四捨五入の関係で合計が100にならない場合があります。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

日本小型株式ファンド ML

【特別勘定が投資する投資信託】

JDF日本小型株ファンドVA（適格機関投資家専用）

【運用会社】

ブラックロック・ジャパン株式会社

主要投資対象

日本の証券取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている株式。主に日本小型株マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

中小型株を中心に企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して選定した銘柄を分散投資することによって、Russell/Nomura Mid-Small Cap（配当込み）を上回る投資成果を目指します。

月次コメント

1. 市場環境

10月の日本株式市場は、中東情勢悪化を受けた原油価格上昇やAI投資の持続性を巡る懸念から下落しました。上旬は、米雇用指標の下振れを受けた追加利上げ観測の後退や日銀短観での製造業の景況感改善などが追い風となり、AI半導体関連を中心に買われたものの、その後は中東情勢緊迫化への警戒感などから上げ幅を縮小しました。中旬は、米物価指標の上振れを受けた追加利上げ観測の再燃に加え、米新興AIクラウド企業の信用不安や日銀高官のタカ派的発言が重石となり下落しました。下旬は、米メタの四半期フリーキャッシュフローのマイナス転換などを受け、AI投資の収益性や持続性を巡る懸念が強まりました。その後、米アンソロピックのIPO（新規株式公開）に向けた目論見書の公開や韓国SKハイニックスの好決算を支えに一時反発しましたが、月末にかけては再び売りが優勢となりました。この結果、TOPIXは月間で3.5%下落しました。尚、東証グロース250指数は、ソフトウェア関連企業の一角が買われたものの、投資家心理の悪化や一部主力銘柄の下落が重石となり、月間で2.5%下落しました。

2. 運用経過

当月は、好調な業績観測に加え通期業績予想の上方修正と増配が好感された国産ERP（基幹業務システム）プロバイダー、AI投資の過熱懸念を背景に株価が下落し非保有がプラスに寄与した大手電線メーカー、中東情勢への警戒による原油価格の上昇が好感された資源開発大手などがプラスに貢献しました。一方で、AI・半導体関連株全体への売りが波及し株価が下落した金属製配管メーカー、月初に年初来高値を付けた後株価の調整が続いた電子機器・自動車部品メーカー、追加利上げ見送り観測と長期金利低下を背景に銀行株への売りが波及した地方銀行などがマイナスに影響しました。当ファンドでは、海外での販売拡大を通じた中長期的な利益成長が期待できると判断した医療機器メーカー、米国住宅事業の中長期的な成長力に対し株価は割安と判断した住宅・木材大手、金利上昇に伴う利益成長が期待できる中で割安と判断した地方銀行などを購入しました。一方で、株価上昇に伴い同業他社に対する相対的な投資魅力度が低下したと判断した地方銀行、システムインテグレーター、国産ERPプロバイダーなどを売却しました。

3. 市場の見通し及び今後の運用方針

世界の株式市場では、企業業績の堅調さが持続するかどうかに加え、インフレ動向や各国の金融政策が引き続き意識される展開となっております。米国では物価指標や雇用統計などのマクロ経済指標に加え、AI関連企業の巨額投資の収益性や資金調達への懸念が意識されており、足元ではAI・半導体関連株が調整しております。また、11月の中間選挙の結果、来年1月から大統領の所属政党と議会の多数派政党が異なる見通しとなり、今後の政策運営への影響にも注目しております。日本では、日銀が10月の金融政策決定会合で政策金利を据え置く一方、保有ETFの売却ペースを来年1月から引き上げる方針を決定しており、今後の金融政策正常化と株式需給への影響を見極める必要があると考えております。もっとも、業績成長が伴う企業については中長期的な投資魅力は変わらず、今後は金利やバリュエーションを意識しながら、より業績の確度を重視した銘柄選別が進んでいくものと考えております。発表が進む7-9月期決算では、業績動向に加え、東証による資本コストや株価を意識した経営の要請や7月のコーポレートガバナンス・コード改訂を背景として、各社が成長投資、事業ポートフォリオの見直し、株主還元などを含む資本配分をどのように変化させていくかにも注目していきたいと考えております。製造業を主とする外需企業においては、生成AI関連を中心とした設備投資需要の持続性や、経済安全保障の観点から進む世界的なサプライチェーン再構築の影響が引き続き注目されます。内需関連企業においては、物価上昇や為替変動による消費への影響には注意が必要ですが、賃金上昇が継続するなか、実質所得の改善が個人消費の回復につながる可能性に注目しているほか、インバウンド需要が国内の消費関連企業の業績に与える影響にも引き続き注目したいと考えております。中期的には、少子高齢化や人口減少が進む日本にあって、生産性改善を目的とした企業再編やAI活用を含むデジタル化への取り組みは、経済成長に必要不可欠であると考えております。当ファンドでは、こうした環境変化を注視しながら、中長期的な成長が期待できる中小型企業への投資機会を引き続き発掘してまいります。

※「3. 市場の見通しおよび今後の運用方針」については、当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
また将来について保証するものではありません。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
世界株式グロースファンド AC

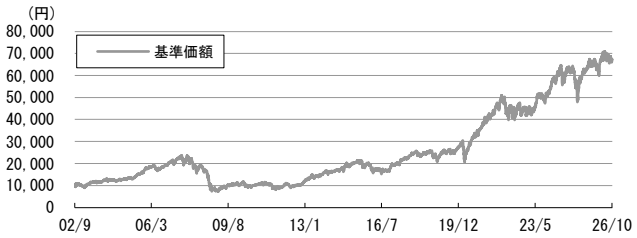
【特別勘定が投資する投資信託】
適格機関投資家私募
アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ－2
【運用会社】
アライアンス・バーンスタイン株式会社

主要投資対象
主に先進各国の証券取引所上場株式。主にアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針
主に日本を含む先進各国の上場株式に投資し、世界株式市場の代表的指数であるMSCIワールド指数を上回る投資成果の獲得を目指します。成長性が高いと判断される「産業セクター」を選定し、当該「産業セクター」の中から成長性が高いと思われる銘柄に投資します。

基準価額の推移と運用実績

基準価額の推移　（1万口当たり）



基準価額／純資産総額

基準価額	67,269円	純資産総額	2億68百万円

《基準価額騰落率》

	1カ月間	3カ月間	6カ月間	1年間	3年間	当初設定来*
ファンド	−0.2%	−1.0%	0.5%	−0.0%	42.2%	572.7%
ベンチマーク	0.7%	0.6%	5.9%	16.6%	96.4%	1209.8%
円／米ドルレート	0.1%	−2.0%	−1.8%	2.2%	5.4%	28.5%

*当初設定日：2002年9月30日

※ベンチマークはMSCIワールド・インデックス（配当金込み、円ベース）です。
※基準価額およびその騰落率は、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資家の皆様の実際の投資成果を示すものではありません。また、データは過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

マザーファンドのポートフォリオの状況　※組入比率は、全て対純資産総額の比率です。

セクター別配分

セクター	比率	セクター	比率
情報技術	34.5%	素材	2.1%
金融	15.3%	不動産	1.9%
資本財・サービス	13.9%	現金等	2.0%
ヘルスケア	12.5%		
コミュニケーション・サービス	6.7%		
一般消費財・サービス	4.6%		
生活必需品	3.9%		
公益事業	2.5%		
			100.0%

国別組入比率

国	比率	国	比率
アメリカ	57.9%	ベルギー	2.3%
日本	6.2%	フランス	2.2%
スイス	5.7%	その他の国	8.3%
台湾	3.7%	現金等	2.0%
イタリア	3.3%		
ドイツ	3.0%		
オランダ	2.9%		
スペイン	2.5%		
			100.0%

資産配分

株式等		98.0%
（内訳）	国内株式	6.2%
	外国株式	91.8%
現金その他		2.0%

組入上位10銘柄　（銘柄数：　56　銘柄）

	銘柄名	セクター	国	比率
1	エヌビディア	情報技術	アメリカ	6.6%
2	アップル	情報技術	アメリカ	4.4%
3	アルファベット	コミュニケーション・サービス	アメリカ	4.2%
4	台湾セミコンダクター	情報技術	台湾	3.7%
5	VISA	金融	アメリカ	3.4%
6	メルク	ヘルスケア	アメリカ	2.6%
7	エンデサ	公益事業	スペイン	2.5%
8	スイスコム	コミュニケーション・サービス	スイス	2.5%
9	ジョンソン・エンド・ジョンソン	ヘルスケア	アメリカ	2.4%
10	アジアス	金融	ベルギー	2.3%
	（組入上位10銘柄計）			34.5%

※小数点第2位以下を四捨五入しています。
※セクター別配分は、MSCI/S&PのGlobal Industry Classification Standard(GICS)の分類で区分しています。
※国別配分は、発行体の国籍や事業基盤等を考慮して区分しています。
※組入上位10銘柄は、当ファンドの運用内容の説明のためのものであり、アライアンス・バーンスタイン株式会社が推奨または取得のお申込みの勧誘を行うものではありません。

市況

2026年10月の世界の株式市場は小幅に上昇しました(米ドルベース)。
米国株式市場は、前月末比で小幅に上昇しました。上旬は、9月の雇用統計が低調な結果となり、米連邦準備理事会（FRB）による追加利上げ観測が後退したことなどから上昇しました。その後は、堅調な米国経済が相場を下支えする一方、インフレや原油価格の上昇が意識され、FRBが政策金利を据え置くなか、株価は一進一退となりました。月後半は第3四半期決算に注目が集まり、企業業績はおおむね市場予想に沿ったものとなりました。ただし、一部の大手テクノロジー企業が人工知能（AI）インフラを中心とする設備投資の拡大を示す一方、中核事業の売上成長率が鈍化したことから、大型テクノロジー株が下落しました。欧州株式市場は前月末比で上昇しました。上旬は、中東情勢の緊迫化を背景とした原油価格の上昇や、フランスの財政および政治状況に対する懸念、金融環境の引き締まりへの警戒感などから下落する場面がありました。しかしその後は、主要企業による良好な決算発表などを背景に投資家心理が改善しました。また、欧州中央銀行（ECB）が政策金利を据え置くとの見方が広がったことも相場を支え、月末にかけて株式市場は持ち直しました。日本株式市場は前月末比で下落しました。月初は、米国の半導体・AI関連銘柄への期待などを背景に上昇しました。しかしその後は、金利上昇への警戒感や中東を巡る地政学リスクなどが重しとなり、下落基調となりました。さらに、AI関連投資の先行きに対する警戒感や利益確定売りなども重しとなり、月末にかけて下落基調が続きました。
為替市場では、米ドル円は円安米ドル高となり、2026年10月30日の基準価額の算定に使用するレートは1米ドル＝157円54銭（2026年9月30日：157円35銭）となりました。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界バランスファンド GSB

【特別勘定が投資する投資信託】

ダ・ヴィンチ VA2

【運用会社】

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

主要投資対象

日本を含む世界各国の株式・債券および円短期金融商品。主にダ・ヴィンチ マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運　用　方　針

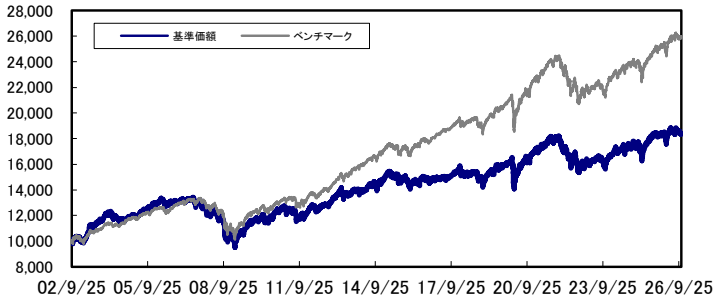
日本を含む世界各国の株式、債券、円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。為替は100%円ヘッジを基本とすることで、円高・円安による為替変動の影響を低減します。

基準日：　2026年10月30日

運用の特徴

1. 主としてマザーファンドへの投資を通じて、日本を含む先進国を中心とした世界の株式、債券と円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。
2. 本ファンドのベンチマークは、MSCIワールド・インデックス40%＋JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）40%（ともに為替円ヘッジ、円ベース）＋日本円1か月TIBOR 20%を使用しております。
3. 為替は100%円ヘッジを基本としています。
4. 資産配分比率、株式・債券・通貨の国別配分比率の変更を行い、収益の向上を目指します。
5. コンピューター・モデルを用いた計量運用を行います。
6. 本ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。

設定来の実績　（2002年9月25日）



（注）上記のグラフは基準価額（信託報酬控除後、課税前分配金再投資）およびベンチマークを、設定日を10000として指数化した実績です。

基準価額および純資産総額

基準価額	18,401円
設定来分配金	0円
純資産総額	1.9億円

（注）基準価額は分配落ち後のものです。

騰落率

	実績	ベンチマーク
過去1ヶ月	−0.63%	0.30%
過去2ヶ月	−1.59%	−0.82%
過去3ヶ月	−0.37%	−0.03%
過去6ヶ月	0.38%	1.43%
過去1年	0.14%	2.74%
過去2年	6.31%	9.57%
過去3年	17.47%	21.38%
設定来	84.01%	158.51%

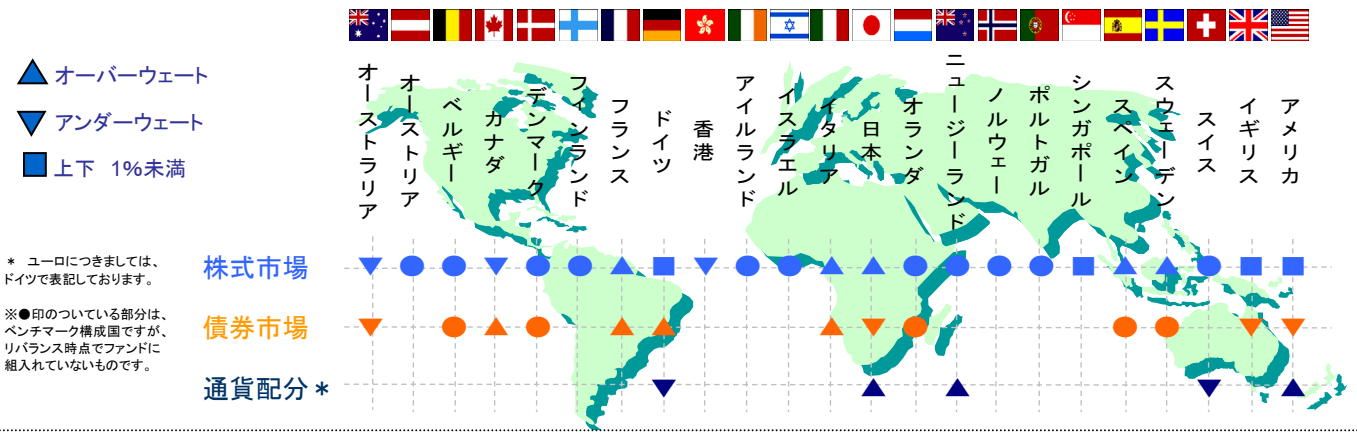
（注）分配金再投資の基準価額の騰落率です。
下記※もご覧ください。

資産構成

	基本アセットミックス	ファンド
世界株式	40.0%	35.9%
世界債券	40.0%	21.7%
円短期金融商品	20.0%	42.3%
合計	100.0%	100.0%

※上記の基準価額、分配金再投資基準価額およびファンドの期間別騰落率は信託報酬控除後のものです。分配金再投資基準価額およびファンド（分配金再投資）の騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。本ファンドの騰落率をベンチマークと比較して評価することは、特に1年未満程度の短期間については資産の評価時点や評価為替レート等の差異の影響が相対的に大きく、必ずしも適切でない場合がありますのでご留意ください。また、ベンチマークには直接投資することはできず、費用や流動性等の市場要因なども考慮されておりません。

ポジション（リバランス時）



＊　ユーロにつきましては、ドイツで表記しております。

※●印のついている部分は、ベンチマーク構成国ですが、リバランス時点でファンドに組入れていないものです。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

世界バランスファンド GSB

【特別勘定が投資する投資信託】

ダ・ヴィンチ VA2

【運用会社】

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

主要投資対象

日本を含む世界各国の株式・債券および円短期金融商品。主にダ・ヴィンチ マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運 用 方 針

日本を含む世界各国の株式、債券、円短期金融商品に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。為替は100%円ヘッジを基本とすることで、円高・円安による為替変動の影響を低減します。

基準日：　2026年10月30日

2026年10月の市場動向

◎10月の世界株式は0.7%程度の下落（MSCI世界株式指数;配当込;現地通貨ベース）となりました。国別に見ると、アメリカでは約1.0%の下落、ドイツでは約2.7%の上昇、フランスでは約0.1%の上昇、イギリスでは約1.5%の上昇となりました。日本国内の株式は約4.0%の下落となりました。
◎10月の世界債券は1.8%程度の上昇（JPモルガン世界国債指数；現地通貨ベース）となりました。国別に見ると、アメリカでは約2.3%の上昇、ドイツでは約1.8%の上昇、イギリスでは約1.6%の上昇となりました。日本国内の債券は約1.8%の上昇となりました。

投資対象の評価（リバランス時）

<資産クラス間配分>*
資産クラス間配分では、円短期金融商品に対し、世界株式にモメンタムの観点から強気の見通しとしている。円短期金融商品に対し、世界債券にモメンタムの観点から弱気の見通しとしている。大型株／小型株の配分に関しては、モメンタムの観点から小型株に強気の見通しとしている。一般優良株／テクノロジー株の配分に関しては、モメンタムの観点から中立の見通しとしている。

<株式国別配分>
株式国別配分においては、フランスや日本に対して強気の見通しとする一方で、オーストラリアや香港に対して弱気の見通しとしている。フランスに対しては、リスクプレミアムの観点から強気の見通しとしている。日本に対しては、マクロおよびバリューの観点から強気の見通しとしている。一方、オーストラリアに対しては、リスクプレミアムおよびモメンタムの観点から弱気の見通しとしている。香港に対しては、リスクプレミアムの観点から弱気の見通しとしている。

<債券国別配分>
債券国別配分においては、フランスやイタリアに対して強気の見通しとする一方で、イギリスやオーストラリアに対して弱気の見通しとしている。フランスに対しては、マクロおよびバリューの観点から強気の見通しとしている。イタリアに対しては、モメンタムの観点から強気の見通しとしている。一方、イギリスに対しては、モメンタムおよびバリューの観点から弱気の見通しとしている。オーストラリアに対しては、モメンタムの観点から弱気の見通しとしている。

<通貨配分>
通貨配分においては、ニュージーランドやアメリカに対して強気の見通しとする一方で、スイスやユーロ圏に対して弱気の見通しとしている。ニュージーランドに対しては、マクロおよびバリューの観点から強気の見通しとしている。アメリカに対しては、モメンタムおよびバリューの観点から強気の見通しとしている。一方、スイスに対しては、ファンドフローおよびモメンタムの観点から弱気の見通しとしている。ユーロ圏に対しては、モメンタムおよびマクロの観点から弱気の見通しとしている。

※ 円短期金融商品･･･一般的に割引国債、コールローン等を指します。また、非円建ての短期金融商品に投資しこれを円ヘッジする場合もあります。
本資料中の資産構成、投資対象の評価等は、過去の一時点におけるものであり、以後変更される場合があります。
＊ 株式／債券／円短期金融商品間の資産配分、大型株／小型株間の配分および一般優良株／テクノロジー株間の配分を含みます。

MSCIおよびMSCIの情報の編集、計算、および作成に関与するその他すべての者（以下総称して「MSCI当事者」といいます）は、MSCIの情報について一切の保証（独創性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性を含みますが、これらに限定されません）を明示的に排除します。MSCI、その関連会社およびMSCI当事者は、いかなる場合においても、直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害、懲罰損害、派生的損害（逸失利益を含みます）およびその他一切の損害についても責任を負いません。MSCIの書面による明示的な同意がない限り、MSCIの情報を配布または流布してはならないものとします。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
マネーファンド MB

【特別勘定が投資する投資信託】
三菱UFJ　MRF（マネー・リザーブ・ファンド）

【運用会社】
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

主要投資対象

国内外の公社債、CP等の短期金融商品。

運　用　方　針

内外の公社債およびコマーシャル・ペーパーを中心に投資し、安定した収益の確保を目指します。投資対象とする有価証券は信用度が高く、残存期間が短いものとします。
外貨建資産への投資については、円貨で約定・決済するもの（為替リスクの生じないもの）に限ります。

2026年10月30日現在

■資産構成

	評価金額（円）	比率
公社債	17,068,447,564	2.8%
（うち固定債）	(17,068,447,564)	2.8%
（うち変動利付債）	(0)	0.0%
短期金融資産	603,982,016,488	97.9%
（うちコールローン）	(276,422,000,000)	44.8%
（うちCD）	(0)	0.0%
（うちCP）	(0)	0.0%
（うち現先・レポ）	(327,560,016,488)	53.1%
（うち割引手形）	(0)	0.0%
その他資産	-3,889,781,085	-0.6%
純資産総額	617,160,682,967	100.0%

・固定債：変動利付債以外の債券。

■基準価額および純資産総額

基準価額	10,000円
純資産総額	6,171.61億円

■ポートフォリオ特性

平均残存日数	4.5日

■国内（邦貨建）公社債（新株予約権付社債（転換社債）を除く）明細表

	額面金額（円）	評価金額（円）	残存期間別比率			
			1年未満	1年以上	2年以上	5年以上
国債	17,100,000,000	17,068,447,564	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%
地方債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
特殊債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
金融債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
普通社債	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	17,100,000,000	17,068,447,564	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%

■債券の格付分布

格付種類	比率
AAA格	0.0%
AA格	0.0%
A格	2.8%
BBB格	0.0%
BB格以下	0.0%
無格付	0.0%

■短期金融商品(CP・CD)の格付分布

格付種類	比率
A－1格	0.0%
A－2格	0.0%
A－3格	0.0%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・比率は経過利子等を債券時価に含まず算出しております。・平均残存日数は組入銘柄の純資産総額に対する比率で加重平均しています。・変動利付債の残存日数は、次回利払日までとして計算しています。・特殊債とは独立行政法人、公庫等の政府関係機関等、いわゆる特殊法人や特殊団体が特別の法律に基づいて発行する債券の総称です。・格付は、R&I、JCR、S&P、Moody'sのうち最も低い格付を表示しています。

・当資料は、オリックス生命の、変額個人年金保険の特別勘定（ファンド）グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関る会社からの運用報告を、オリックス生命より提供するものであり、オリックス生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用等の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。